

最優秀賞

中学生区分

理解して支え合うことの大切さ

宮古島市立西辺中学校 二年

花城 唯

みなさんは、障がいのある人を見たことはありませんか。また、障がいのある人を見て、どういった感情をもちますか。ほとんどの人が「かわいそうだな」と思うのではないでしょうか。私も最近まではそうでした。しかし、私の中の三つの体験で、障がいのある人への感情、接し方が変化しました。

一つ目の体験が、中学一年生の夏休みに参加した福祉体験です。私は、児童福祉に三日間おじやまさせてもらいました。そ

こには、ダウン症の子やコミュニケーションが上手にとれない子など、障がいをかかえているいろいろな子どもたちがいました。症状が重い子は、はっきりと話せなかったり、言葉を交わすこともできませんでした。そんな様子を目の当たりにした私の最初の感想は「かわいそうだな」「大変そうだな」でした。

でも、みんなと遊んでいくと、いつのまにか自分まで楽しくなり、周りが楽しそうな笑顔でいっぱいになりました。そうすると、私の最初の感想であった、「かわいそうだな」「大変そうだな」という感情が逆におかしく思えてきました。「かわいそうだな」と思っていたのも、みんな自分がやりたい事をするこゝとができて、楽しんでいたし、「大変そうだな」という気持ちも、自分自身が一緒に遊んでいる時に「楽しい」と感じる事が何度もあったからです。たった三日間しか過ごしていない私でもそ

う感じられたのだから、職員さんたちは、辛いことの何倍も楽しいことがあるのかなと思いました。

二つ目の体験は、お店で買い物をした帰りのことです。その日は雨が降っていました。電動車いすのようなものに乗っている人の雨具がゆがんで、前が見えているのか分からない状態でした。そのとき、お母さんが、車からおりて、雨具を直していました。また、店員さんが、その人に耳元で優しく、「何がほしいですか」と声をかけたり、カバンに商品を入れたりしていました。お母さんと店員さんみたいに困っている人がいたら迷わず手助けができる人になりたいと思いました。私はこの時、周りのみんなで一人を支えるということ、気づいたら、見て見ぬふりをせず、すぐかけつけることの大切さに気づきました。

三つ目は、私のお友達のことです。家族の前ではしゃべれる

けど、友達の前だと緊張して、しゃべることができなくなってしまう。私も最初の方は、「あとちよつと頑張ればしゃべれるんじゃない。」とか、「そんなに緊張しなくていいのに。」

と思っていました。でも、最近はずれがどれだけ、難しいかを知りました。それを知ったきっかけが、私のお友達についてのビデオです。どんな症状なのかを分かりやすく説明していました。私のお友達は、しゃべろうとすると、みんなが何かの大きい大会に出るときのようにドキドキすることが分かって、自分はその立場だったらと考えると、胸が痛くなりました。でも、その人のことについてしっかり理解する、理解したうえで、優しく声をかけてあげること、困っていたら困っていることに気づいて助けてあげることが大切だと分かりました。

私は、この三つの体験から、まず、障がいのある人につい

てしっかりと理解することが必要なことだと分かりました。そして、理解したうえで優しく声をかけたり、手助けをすることが大切な行動です。その行動は、思いやりがある人にしかできなくて、カッコイイことだと私は思います。私の最初の「かわいそうだな」という気持ちは、障がいのある人にとっては一番いやなことかもしれないから、「頑張れ」と応援する気持ちに替えようと思いました。周りのみんなで一人を支えることが、人間皆平等で平和な世界につながると私は思っています。そんな世界を目指して、自分から積極的に行動していきます。